

出版情報

書名・件名	昭和59年 労働経済の分析
編集者・監修者	労働省
発行日	

「昭和59年労働経済の分析」(労働白書)の発表に当たって

昭和59年のわが国経済は、前年に引き続き拡大を続け、労働力需給や雇用失業面についても全体として改善が進みましたが、そのテンポは緩やかなものとなっています。雇用の安定を図るためには、国内民間需要を中心とした景気の持続的な拡大とともに雇用対策の役割が重要です。また、労働時間について、労働福祉増進の観点ばかりでなく、多くの側面からその短縮へのニーズが高まっています。こうした中で、勤労者家計は緩やかな改善が続いていますが、勤労者生活の充実についてより一層議論を深める必要があります。

現在、マイクロ・エレクトロニクスを中心とした技術革新が急速に進展しています。技術革新は、一方で経済成長に大きく寄与していますが、同時に労働のあらゆる局面に様々な形で影響を及ぼしています。

本年の労働白書は、このマイクロ、エレクトロニクス化を中心とした技術革新の進展が職務内容や労働者構成等に及ぼす影響を分析し、併せて今後の動向の中で重要な対応策のひとつとされる労働者の能力開発の問題を取り上げました。人口の高齢化や女子の職場進出、第3次産業化が進む中で、技術革新を十分に活用し国民生活の向上を図るためには、労使間をはじめ国民各層のコンセンサスを得つつ、能力開発の積極的な推進や労働時間対策など、職場内外の種々の労働問題について適切な対応を図ることが重要です。

この白書が、こうした技術革新下の労働問題について国民各層の理解を深めるための一助となれば幸いです。

昭和60年7月 山口 敏夫 労働大臣